

## 様式第五十の二（第48条第6項関係）

### 認定事業適応計画の中間実施状況の概要の公表 (令和4年度)

#### 1. 認定の日付

2021年12月20日

#### 2. 認定事業適応事業者の名称

株式会社九電工

#### 3. 認定事業適応計画の実施期間

2021年12月～2025年3月

#### 4. 認定事業適応計画の実施状況

##### (1) 事業適応計画に係る事業の目標の達成状況

株式会社九電工は、本計画において、建物の空調熱源設備に関する様々なデータをクラウド上に吸い上げ、それらをAIで分析・解析し、日々の最適な運転状況について、有用かつ適切なアドバイスを行う有料サービスを展開する。これにより、既存のインフラ設備などのビジネスモデルを変革し、脱炭素社会への貢献が求められる顧客のニーズに合致したサービスを展開することで、新たな需要の開拓を図り、電気、空調管工事等の設備工事業の競争力を強化する。令和4年度は実店舗にて、最適化モデルが試算した運転スケジュールによって空調熱源設備を稼働させるにあたって、熱負荷予測と実負荷に乖離は生じていないか、また、実行可能な運転スケジュールになっているかなどを検証した。

##### (2) 生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標の達成状況

2022年度においては、空調AI制御システムを起点とした既存のインフラ設備の更新等の売上高は13,300百万円を目標としてきたが、空調AI制御システムによるサービス提供を翌年度（令和5年度）に変更したため、新商品・新サービスの売上は発生しなかった。そのため売上高実績は0円になった。しかし、実際に投資は進んでおり、2023年度内に実施検証店舗への導入予定となっている。また類似施設への提案を随時行っており、複数社より関連の工事を含めた引き合いを頂いている状況であることから、計画終了年度においては見込み売上高に関しては達成できる見込みである。

##### (3) 財務内容の健全性の向上を示す目標の達成状況

財務内容の健全性の向上指標については、2022年度は有利子負債/CFが▲7.6倍となり、経常利益収支比率が109.8%となった。

##### (4) 実施した事業適応計画の内容

2022年度においては、最適化モデルが試算した運転スケジュールによって空調熱源設備を稼働させるにあたって、熱負荷予測と実負荷に乖離は生じていないか、また、実行可能な運転スケジュールになっているかなどを検証した。